

【八月の言葉（令和四年）】

煩惱とは、

自己中心の思いから離れられない、

自己に執着した心のことです。

煩惱がなくなり、悟りを得たらどうなるのでしょうか。

よく、「煩惱がなくなったら何かをしようと思う心が起こらず、ボーツとした人間になる」と勘違いする人がいますが、そうではありません。

自己中心の心から離れられず、自分の欲望を満たそうと思う心が、自らを煩^{わづら}わし悩ますので「煩惱」というのであって、自己中心の心を離れたところから出てくる何かをしたいという心は、煩惱ではないのです。自分の好きな人だけを助けたいという思いは煩惱ですが、すべての人を救いたいという思いは煩惱ではないのです。

悟った人とは、すべての人の喜びとともに喜び、すべての人の悲しみとともに悲しむ、そんな豊かな心を持った人のことなのです。

（「十三歳からの仏教 一番わかりやすい浄土真宗入門」参照）

